

2005年版 先生のつぶやき (教授)

厄年と更年期

40歳を越えて厄年が過ぎた頃、「やる気」の喪失を味わいました。男の更年期？感情の高まりが感じられず体から元気が抜けて行く、これはどうしたことなんじゃい？ そこのあなた！もしかして君もそうじゃないか！「**Shall we dance?**」という映画にもあったじゃないか、ローンの重圧もなんのその、家も建てて、かみさんの文句もひと段落、子供も大学で勝手にやっている。まだ人生先は長いのに、脱力感！ その頃、「感動したことは何故あつというまに記憶するのか?」、「やる気のあることは何故学習意欲が続くのか?」、「この分子機構を解明したい」と強く思うようになりました。といっても、突然研究対象を変えたわけではなく、20年来ずっと携わっていたチトクロム P450 がこの方面に関連があると感じて、肝臓や副腎皮質をやめて脳海馬のニューロステロイド研究に絞ったわけです。最近、医学の進展で、たいそう長寿になり、体が壊れる前に、脳が壊れてしまいます。高齢化問題の本質です。現在はまだ不可能ですが、この先10年くらいで Alzheimer 病や Parkinson 病、ボケなどの脳の崩壊を食い止めるのは重要です。我々の近年の研究成果をまとめると、脳は体とは独立に男性・女性ホルモンを合成しており（ニューロステロイド合成経路の最終産物）、この性ホルモンは、海馬の記憶学習能力を改善します。つまり、記憶の書き込みや、いやな記憶の消去（＝明日の活力を得るにはいやな記憶を意識的に消去することは重要）能力を改善するのです。性ホルモンは海馬の記憶ボケを予防するためです。更に、性ホルモンは脳では性ホルモンではなく、神経成長因子です。♂の脳も女性ホルモンを合成し、♀の脳も男性ホルモンを合成するのですから！！更にこれらの性ホルモンはストレスホルモンによる鬱（うつ）状態を改善します。毎年の研究の進展で、この説明の確実性が増し、新たなボケ防止サプリメントなどの開発につながると思っています。50歳を過ぎて「やる気」は回復しました。